

<開催概要>

パリ市立文化施設アトリエ・ド・パリの企画による本展覧会では、日本文化の影響をさまざまな形で受けたフランス人作家の作品を紹介しました。展覧会は「夢の中で思い描いた日本」、「実際に訪れた日本」、「素晴らしい技術が生まれた故郷としての日本」の3つのテーマで構成され、ヴィラ九条山に滞在した作家やパリ市主催のデザインコンテストでグランプリを受賞した作家ら28人の作品からは、日本の和の心に触発されたフランスの創造力を感じられました。

11月11日から26日まで東京都美術館で同展が開催される前に、京都でも展示が行われました。また、11月9日（金）-11月11日（日）にトーキョーアーツアンドスペース（TOKAS）で開催されるオープンスタジオにも出展作家のAnne Xiradakis氏が参加しました。

名 称	現代工芸品展覧会『Création sous influence -響き合う創造-』
------------	--

開催日	2018年11月11日（日）-11月26日（月）
------------	--------------------------

主 催	東京都、在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本
------------	------------------------------

会場

東京都美術館

住所: 〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36
URL: <https://www.tobikan.jp/>



現代工芸品展覧会『Création sous influence -響き合う創造-』

<事業の詳細>

■ オープニングトークイベント

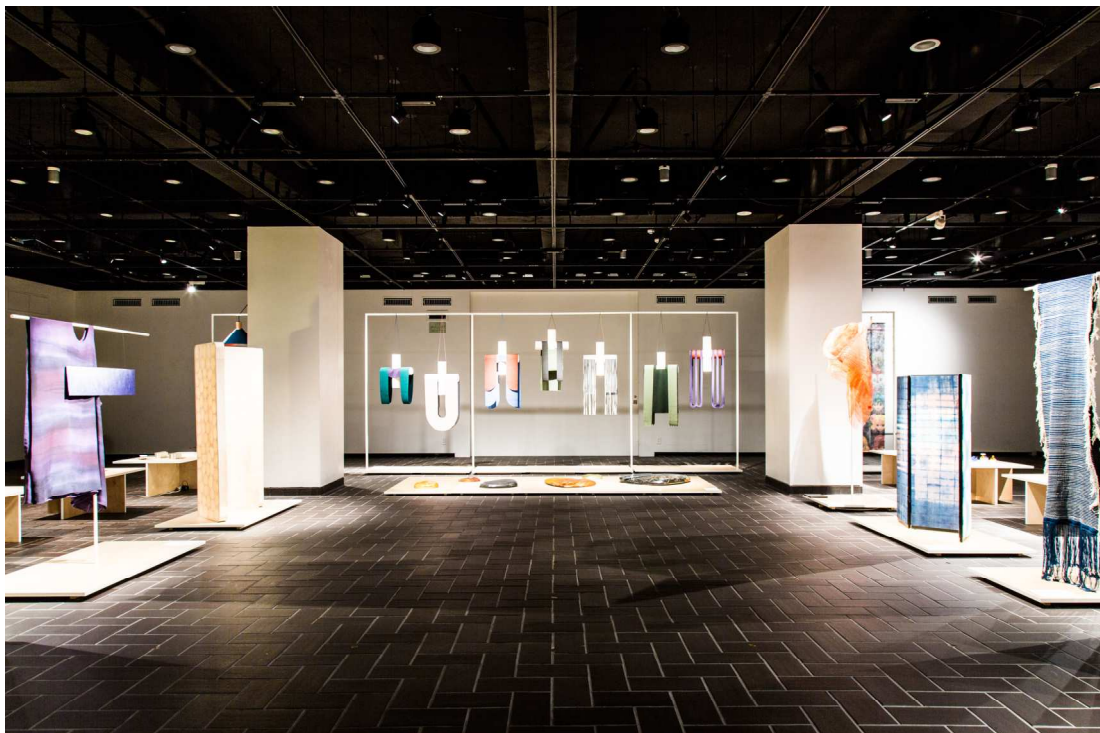


■ レセプションパーティー



■ 『Création sous influence - 響き合う創造 - 』

本展覧会の会場構成はフランス人のアーティストックディレクターを起用し、展示作品34点を3つのテーマ「夢の中で思い描いた日本」「実際に訪れた日本」「素晴らしい技術が生まれた故郷としての日本」に分類し展示を行いました。様々な技法を使った作品が並ぶ展示室で作品本体を際立たせるため、展示台はシンプルに一貫性を持ったデザインとし、照明は作品だけに焦点を当てるスポットライトとしました。



■ 入場者数

15日間展示、合計 6,004名

現代工芸品展覧会『Création sous influence -響き合う創造-』



<開催概要>

首都大学東京と EPSAA（パリのグラフィックアート・建築高等専門学校）の学生が参加するポスターコンテストが開催されました。

東京とパリの2都市を結びつけるものや両都市を象徴するものなど、2都市を自由に表現したポスターをそれぞれに制作し、東京の優秀作品15点とパリの優秀作品16点の合計31枚のポスターと一緒に展示されました。

また、同時期（2018年11月1日（木）～2018年11月30日（金））にパリ市でもパリ市庁舎近くのサンジャック塔の柵に同じ作品が展示されました。

名 称	大学生の東京・パリのポスターコンテスト
開 催 日	2018年11月9日(金)～2018年12月16日(日)
主 催	東京都、在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本

会場**東京：スバルビル解体工事仮囲い（小田急電鉄株式会社）**

住所：東京都新宿区西新宿1丁目7番2号

パリ：サンジャック塔

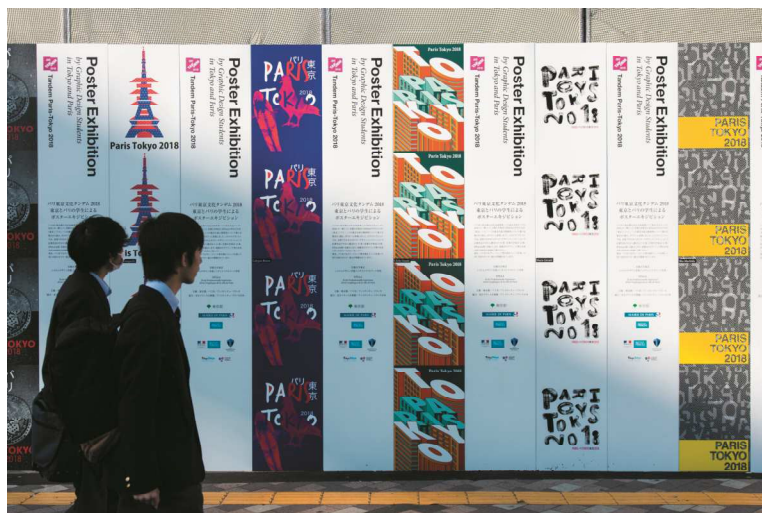
住所：Square de la Tour Saint-Jacques, 75004 Paris

大学生の東京・パリのポスターコンテスト

<事業の詳細>

■ スバルビルでの展示

スバルビル解体工事仮囲いに展示しました。



■ 推定鑑賞者数

44日間展示、合計 約22万名

大学生の東京・パリのポスターコンテスト

サンジャック塔での展示

サンジャック塔の公園を囲う柵に展示しました。



<開催概要>

パリ管弦楽団は、フランス屈指の交響楽団です。フランスの建築家ジャン・ヌーヴェル氏が設計した新たなホール「フィルハーモニー・ド・パリ」(2015年)を活動拠点とし、国内外で年間100回以上の公演を行っています。2016年より同交響楽団の音楽監督に就任した指揮のダニエル・ハーディング氏は、就任直後の来日公演でマーラーの『交響曲第5番』(主催：東京芸術劇場)を披露し、聴衆に大きな感動を与えました。

再び来日する本公演では、ソリストにイザベル・ファウスト氏(ヴァイオリン)を迎え、ベルクの『ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」』とマーラーの『交響曲第1番「巨人」』の2つの曲目を演奏しました。色彩豊かな音色が特長のパリ管弦楽団が、これまで数多くのマーラー演奏に取り組んできたハーディング氏と共に雄大な世界観を創りあげました。

【出演】指揮：ダニエル・ハーディング
ヴァイオリン：イザベル・ファウスト
管弦楽：パリ管弦楽団

【曲目】ベルク／ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」
マーラー／交響曲第1番 二長調「巨人」



名 称	東京芸術劇場 海外オーケストラシリーズ パリ管弦楽団
開 催 日	2018年12月16日(日) 15:00開演
主 催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場

会場

東京芸術劇場 コンサートホール

住所：〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1

URL: <http://www.geigeki.jp/>



海外オーケストラ公演『パリ管弦楽団』

<事業の詳細>

ベルク／ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」

ソリストとして登場したヴァイオリンのイザベル・ファウストは、ベルクの最も有名な作品「ある天使の思い出に」を、透明感あふれる音色と変幻自在なテクニックで、聴衆を圧倒しました。アルマ・マラーの娘のために書かれたベルク最晩年の作品で、様々な解釈からいずれも魅力的な物語を想起させる複雑な楽曲。これを力強く、時に繊細に見事に表現しました。これまでの共演歴からハーディングとの相性の良さも抜群。水彩画のように美しく、難解な音楽を集中力の高い演奏で魅了しました。



マラー／交響曲第 1 番 二長調「巨人」

来場者が期待に胸を膨らませる中、パリ管弦楽団に続いて舞台上に上がった指揮のダニエル・ハーディングは、来日期間中に足を負傷し車椅子で登場しました。降板せずに椅子に座ったままの指揮でしたが、最後まで怪我を思わせないパフォーマンスでオーケストラを統率しました。マラー交響曲第1番「巨人」は、ハーディングがこれまでマラーの演奏実績を着実に積み上げてきた功績を残すような名演でした。作曲家の瑞々しい青春の息吹や苦悩を感じさせる、ダイナミクスやテンポ設定に加え、華麗で闊達な管楽器陣が彩りを添え、圧巻の音楽絵巻を繰り広げました。

アンコールでは、エルガー作曲「ニムロッド」を演奏しました。ハーディングが東日本大震災を実体験し、後日、追悼演奏をしたことで知られる思い入れある作品です。会場が、美しく静かな余韻に包まれると、観客からは盛大な拍手が贈られました。ハーディングが助けを借りて車椅子から立ち上がると、今回のマエストロの功績に一段と大きな拍手が贈られました。



入場者数

1公演 1,409名

海外オーケストラ公演『パリ管弦楽団』



＜開催概要＞

アル・サン・ピエール美術館では社会福祉法人 愛成会と協力し、日本のアール・ブリュットを紹介する2回目の展覧会が開催されました。アール・ブリュットが現代アートの領域で独自の存在感をもつようになる中で、アール・ブリュット発祥の西洋の枠組みを超えて、日本発のアール・ブリュットはその可能性拡大の一翼を担っています。

出展作家 52 組の作品を見ると、どの文化にも独自の神話や表現手法を生み出すアーティスト、もしくはアーティストのグループがいるということが分かります。工房であろうと、個人で創作活動をしている作家であろうと、伝統的な陶芸から折紙の応用のようなものまで、作家たちはあらゆる手法と材料をもちいて制作に取り組んでいます。

今回展示される作品には、初めて海外で出展されるものも多くありました。日本のアール・ブリュットを代表する作家で、2013 年のベネチア・ビエンナーレでも賞賛された澤田真一氏の作品にも見られるように、創造とは、まさにアール・ブリュットという概念の提唱者として知られるジャン・デュビュッフエも語ったように、「完全に純粹で、なまで、再発見された、すべての相の総体における作者による芸術活動であり、作者固有の衝動だけから出発している」ものです。

今回の展覧会は、『アール・ブリュット ジャポネ』(2010-2011)に続く第2弾でした。日本の作家52組の作品が今回のために特別にパリに集結しました。また、展覧会との連携企画として、知的障害者によるプロの和太鼓集団「瑞宝太鼓」の公演も行われ、ナント市では2019年2月23日（土）と24日（日）にフランス国立現代芸術センターリュウ・ユニックで、パリ市では2月27日（水）と28日（木）にパリ日本文化会館でパフォーマンスが披露されました。

名 称	展覧会『アール・ブリュット ジャポネⅡ』
開 催 日	2018 年 9 月 8 日（土）-2019 年 3 月 10 日（日）
主 催	東京都、パリ市立アル・サン・ピエール美術館、社会福祉法人愛成会

会場

アル・サン・ピエール美術館

住所: 2 Rue Ronsard, 75018 Paris, フランス
URL: <http://www.hallesaintpierre.org/>



展覧会『アール・ブリュット ジャポネⅡ』

<事業の詳細>

ベルニサージュ（オープングレセプション）
2018年9月7日（金）18:30-

展覧会の開幕に先立ち、アル・サン・ピエール美術館から招待されたゲストを対象にベルニサージュが行われました。ジャン・マルク・エロー元フランス首相ご夫妻や樋口義広在仏日本大使館公使をはじめ、約1,500名の方が会場を訪れて日本のアール・ブリュット作品を鑑賞しました。



開催期間中について

日本全国から集められた52組の作家による作品約640点が、アル・サン・ピエール美術館の1階と2階に分かれて展示されました。海外で初めて展示される作家や作品も多く、パリ市民を中心に様々な国の人の心を惹きつけました。

来場されたのは、お子さんからご年配の方まで幅広い年代、そして様々な職業の方々でした。アール・ブリュットに関心のある方でも日本の作品をご覧になるのは初めてという方が多いようで、「個性が際立つ高い質の作品ばかり」「多様性に溢れた展示」「とても満足した」という感想が寄せられました。

この展覧会は、開幕当初から多くのメディアに取り上げられるなどフランスで話題となり、入場のための列ができることもありました。11月には小池百合子東京都知事が訪問し、マルティヌ・ルサルディ美術館館長のご案内のもと、作品を鑑賞しました。



入場者数

184日間展示、100,116人

展覧会『アール・ブリュット ジャポネⅡ』



<開催概要>

「FUROSHIKI PARIS」では、「東京からパリへの贈り物」としてパリ市庁舎前に風呂敷包みをイメージしたパビリオンを設置しました。

風呂敷における伝統的な包む技術とは、四角い布を折りたたんで物を包んで運ぶというものです。風呂敷は8世紀（奈良時代）から日本で使われ始め、時が経つにつれて日本人の日常生活になじんだものとなりました。

風呂敷は世界最初のエコバックです。「FUROSHIKI PARIS」は日本の伝統であり、芸術であり、環境の知恵でもある風呂敷を世界に発信させるため、開催しました。また、パリ日本文化会館では、風呂敷の展示やワークショップを行いました。

名 称	FUROSHIKI PARIS
開 催 日	<ul style="list-style-type: none"> ■内覧会 2018年10月31日（水） ■一般公開 2018年11月1日（木）～6日（火）6日間 10：00～19：00 ■パリ日本文化会館でのワークショップ： 2018年11月 2日（金）、10日（土）、15日（木）、 17日（土）、24日（土）、30日（金）
主 催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、風呂敷プロジェクト実行委員会
共 催	独立行政法人国際交流基金、一般財団法人自治体国際化協会

会場

パリ市庁舎前広場 Parvis de l'Hôtel de Ville

住所: Place de l'Hôtel de Ville, 75004 PARIS

URL: <https://www.parisinfo.com/transports/90902/Place-de-l-Hotel-de-Ville>

パリ日本文化会館

住所: 101 bis, quai Branly, 75015 PARIS

URL: <https://www.mcjp.fr/ja>

FUROSHIKI PARIS

<事業の詳細>

パビリオン

パビリオン内では、風呂敷の由来の紹介、日仏のアーティスト等のデザインによるオリジナルふろしき展示、ふろしきインスタレーション、ふろしき体験コーナーなどを展開しました。



© Sogendo Inc.

石像インスタレーション

パリ市庁舎壁面の歴史的人物の石像にもふろしきを贈りました。



© Atelier Tsuyoshi Tane Architects

パリ日本文化会館での展示及びワークショップ

ふろしきの展示や、包み方を実際に体験していただくワークショップを開催しました。



入場者数

■パリ市庁舎前広場 来場者数

内覧会 105名

一般公開 パビリオン来場者数 21,275名 石像観覧 56,810名

総来場者数 78,085名

■パリ日本文化会館

ふろしき展示 計 7,600名

うち、ワークショップ参加者数 計 201名（6回）

総数 85,685名

FUROSHIKI PARIS

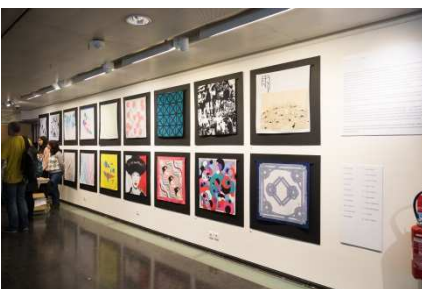
内覧会



一般公開



パリ日本文化会館での展示及びワークショップ



<開催概要>

本催しでは、19世紀前半に「からくり儀右衛門」こと田中久重（1799-1881）が日本各地で行った「からくり人形」の興行を再現しました。

「からくり人形」が制作された江戸時代（1603-1867）は、約250年もの長い間戦乱のない世が続いた世界的に見ても稀有な時代でした。平和が続いたこの間、産業や商業が著しく発展し、職人らの高度で緻密な技術力が醸成されました。なかでも「からくり人形」は、動力や仕掛けに優れた技巧が結集し制作されたものです。田中久重による、文字書き人形、弓曳童子などの「からくり人形」は、見世物興行で披露され、多くの人々を驚かせ喜ばせました。

一方、田中久重は和時計、蒸気機関、電話機など、他の様々な発明でも才能を発揮し、日本の科学技術史にその名を刻んでいます。その足跡は、在来技術から近代技術への推移と発展を体現したものとイえるでしょう。

このたびのパリ公演は、貴重な「からくり人形」の実演をご覧いただくまたとない機会となりました。本公演により、現代まで脈々と息づいている、日本のものづくりの原点を紹介しました。

名 称	からくり人形の動態展示
開 催 日	2018年11月2日（金）・11月3日（土）
主 催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館、東京都

会場

パリ日本文化会館

住所: 101 bis, quai Branly, 75015 PARIS

URL: <https://www.mcjp.fr/ja>



からくり人形の動態展示

<事業の詳細>

動態展示

パリ日本文化会館の小ホールにて「夢からくり一座」によるからくり人形の動態展示を1日5回実施しました。



エントランスホールでのパネル展示

パリ日本文化会館エントランスホールにてからくり人形に係る紹介動画と解説パネルを8枚展示しました。



入場者数

来場者数 2,864名
うち、動態展示鑑賞者数 10公演 合計 1,006名

からくり人形の動態展示



タンDEM記者発表

記者発表会 (2018年6月6日 駐日フランス大使公邸)



記者懇談会 (2018年10月3日 元パリ市長公舎)



パリ市主催の事業

■ 展覧会『Les faits du hasard』

会場：サン・キャトル・パリ

開催期間：2017年12月9日－2018年3月4日

■ アーティスト couch のインスタレーション『Tracing Sites』

会場：ゲテ・リリック

開催期間：2018年2月2日－2月11日

■ 展覧会『浦沢直樹の作品世界』

会場：パリ・ランデヴー（パリ市庁舎）

開催期間：2018年2月13日－3月31日

■ ジャパン・トリビュート・ナイト

会場：サン・キャトル・パリ

開催期間：2018年3月3日

■ 小泉明郎氏のパフォーマンス&トーク （4月14日から開催された展覧会のイベント）

会場：MAC/VAL

開催期間：2018年3月4日

■ パリ・ダンス・シークエンス 2018

会場：サン・キャトル・パリ

開催期間：2018年3月20日－4月7日

■ ジョン（犬）と岸野雄一氏による音楽劇『正しい数の数え方』 「キャプテン・フューチャー」 （ゲテ・リリックの子供向けプログラム）スペシャル版

会場：ゲテ・リリック

開催期間：2018年3月25日

■ イベント『Paint Your Teeth』

会場：DOC

開催期間：2018年4月13日

■ 写真展『東京画 SHIBUYA - TOKYO CURIOSITY』

会場：パリ4区庁舎

開催期間：2018年10月19日－11月17日

編集・発行

東京都生活文化局 文化振興部企画調整課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
東京都庁第一本庁舎18階 北側
電話：03-5388-3151

公益財団法人 東京都歴史文化財団
〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1
電話：03-5610-3500

平成31年3月発行